

## 第17回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2022年3月31日（木）午前9時00分～10時00分
2. 開催場所：Zoomを用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）  
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、榎本 敦、浜田信行、橋本 周、秋吉優史、笠井篤、小田啓二、小嶋光明、川島恒憲、中村美和、五十嵐 悠
4. 紹介資料  
資料1 「職場の安全サイト」労働安全取組  
資料2 海外におけるエックス線事故事例  
資料3 経過報告書全体にかかる検討事項
5. 議事
  - (1) 意見発表  
資料1に基づき、中村委員よりエックス線事故に関連した労働安全の取組みについて紹介があった。
    - 放射線・エックス線事故の区別なく、労働災害統計及び災害事例が広範にまとめられており、データベース化されている。エックス線ばく露に係る我が国で発生した事故について、インターロックを無効化して照射中のエックス線装置に手を入れてばく露した事例の紹介があった。
    - 委員から以下の意見、コメントがあった。
      - ✓ 「職場の安全サイト」の更新頻度、及び事故事例の記載について質問があり、労働災害に関して高頻度で更新されていること、及び事故事例は匿名化され、事業所情報は公開されていないとの回答があった。資料2に基づき、五十嵐幹事補佐より近年発生している海外でのエックス線事故事例について報告があった。
    - IAEAが掲載するNuclear Events Web-based System (NEWS)より合計3件（ドイツ2件、スウェーデン1件）のエックス線被ばくに係る事故事例を紹介した。
    - 委員から以下の意見、コメントがあった。
      - ✓ 大学・研究機関において、エックス線装置に限らず、レーザー装置の試験・点検作業時に事故が発生しており、他の事故事例との共通点が見いだせることから五十嵐幹事補佐により示された分析の視点が事故予防に向けた規制整備などに有用であるとの指摘があった。
      - ✓ 海外規制当局の取り組みに関する情報収集について、委員より追加調査の提案があった。また、放射線安全文化の現場への浸透を図る上で各国の取り組みを参照するのも有益で、その際に各国が定める線量限度の考え方の違いに関しても留意すべきであるとの指摘があった。
  - (2) 経過報告書全体について  
資料3に基づき、経過報告書作成にかかる検討事項について確認があった。経過報告書の構成に関し、1) 経過報告書要旨（1ページ以内程度）の追記、2) 第2章表題の変更、及び3) エックス線事故WGの目的と現状の検討状況について記載を追加、について了承された。また、経過報告書の内容等について、放射線安全管理学会6月シンポジウム（6月16日）及び保物シンポジウム（6月28日、29日）において

紹介する予定である旨回答があった。

(3) その他

- WGメンバーに配布していた第16回WGの議事要旨を確認し、承認を得た。
- 第18回以降の開催については別途事務局内で日程調整することとした。
- 次年度の保健物理学会事業として本WG運営に係る予算申請を行い、事務局として、外部委員招へい、検討事項に係る意見等の募集を検討している点周知があった。

以上